

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401369		
法人名	社会福祉法人 福翠会		
事業所名	グループホーム 花の里 第1グループ		
所在地	長崎県諫早市福田町3316-3		
自己評価作成日	令和3年2月12日	外部評価結果確定日	令和3年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念の「人は心」「信頼」「安心と安全」をモットーに、今までの生活習慣を大切にし、入居された方が安心して自分らしい生活が出来るように本人やご家族からの情報を元に様々な活動に取り組んでいます。利用者様の人生の中での喜び、楽しみのある機会を多く作れるような支援に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvosvoCd=4270401369-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和3年3月13日		

里山の風情を残す環境のなかで、畑で収穫したのものや、季節に採れた筍や栗でごはんを作り食卓にのせている。陶芸が趣味の利用者のために陶芸用の電気釜を準備するなど、有する能力を生かしその人らしく暮らすための支援が行われている。職員に対してもキャリアシート作成面談により相互の意思の疎通が図られ、希望する外部研修や資格取得に向けての支援があり、サービスの質の向上につながっている。自然災害に対しても高い意識をもち、毎月の避難訓練と年に一度消防署との合同訓練が行われている。非常備蓄はもちろんのこと、敷地内の井戸水を濾過する機械やガスタンクが設置され、非常時のライフラインも確保されている。利用者の日常生活と安全を守るよう真摯な取り組みをされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの際、理念をホールの壁に貼り日勤者と夜勤者で理念を唱和している。また、利用者の生活援助計画の中に理念を掲げ、管理者、職員が理念を共有し、計画に活かせるようにしている。	利用者の生活援助計画のいちばん上段に理念の記載があり、基本に常に立ち返りながら、日常生活のなかで支援に反映させるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事を通して、保育園やボランティアの方々との交流する機会を作り、地域との繋がりに努めている。	地域の一員であるという意識を持ち、町内清掃など積極的に参加している。例年、グループ法人の秋祭りや餅つきなどの行事に近隣の方の参加も多く、地域住民との交流が図られている。地区の小学校・中学校、また学校教職員の職場体験などボランティアの受入は多岐にわたっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での実践を通して地域の研修会や法人内研修に積極的に参加し地域の方々にも法人内の研修の呼びかけを行い研修を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、年6回の運営推進会議を開催し家族や民生委員、市役所の職員に参加して頂き、実績報告や事業報を行っている。毎月、議題を決め報告を行い意見や要望を受け、今後のサービスの質の向上に努めている。	新型コロナウイルスの影響により、書面での会議を余儀なくされているが、送付後、電話により意見・要望を伺うなど、活発な意見交換になるよう工夫されている。グループホームからの参加者は管理者、各ユニットリーダーとなっているが、出された意見について職員との話し合いにより、会議内容の共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や家族会にも市役所の高齢介護課の職員、民生委員に出席して頂き家族とも交流を図っている。	市役所担当者の運営推進会議への参加により、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、忌憚のない意見をもらっている。また、家族会にも参加してもらい、利用者及び家族の困りごと相談に対処してもらうなどしっかりと連携がとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リモートで参加できる研修に参加して身体拘束については、2ヶ月に1回会議を開き、職員間で話し合いを行い、意識付けを行っている。	定期的な内部研修で具体的な事例により知識の向上が図られている。外部研修へ積極的に職員を参加させるなどの取り組みにより、常に意識づけを行い職場全体での身体拘束になる行為を正しく理解し、共有されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアを実践していく中で、研修などで学んだ知識、虐待について理解を深め職員間で情報を共有し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、知識や制度を理解できるように、職員で日々学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要書類について十分に説明を行い、家族などからの質問にも丁寧に答えながら信頼関係の構築に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時に家族または、利用者から意見・要望等を頂いている。面会時にも家族に意見を聞く機会を設けている。	ご家族等の面会の際に、職員が積極的な声掛けを行い、汲み取った意見や要望は個人日誌・連絡ノートなど記録に残し、情報共有し支援に反映させるようにしている。例年定期的に行われる家族会では、日常生活を映像にし報告を行い、ご家族からの意見が出易いよう工夫されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週行っている全体ミーティング、毎月1回の合同ミーティングで職員の意見や提案など聞き、代表者や管理者と話す機会を設けている。	年一回キャリアシート作成面談があり、理事長等と職員が活発な意見交換をして相互理解を深めている。職員の提案により、加湿器の購入や共用トイレ前方の手すりの取り付けなど、利用者へのサービス向上と職員の負担軽減になるよう積極的に意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を年2回実施し、個人面談を行うなどし、向上心ややりがいをもって働けるように職場環境に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部で開催される研修に積極的に参加し、職員が希望する研修会にも参加できるように環境づくりを行い、職員1人1人のスキルアップと意識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や法人研修に参加し他の事業所方と情報交換を行い、参考店は積極的に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を元に、声かけ、傾聴し、他の利用者や職員と安心して共同生活を送ることが出来るように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、家族の不安や要望等の思いを語る機会を作り、良好な関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員と家族が話し合い、アセスメントを十分に行い、ニーズを見極め、適切な対応が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で家事活動を職員と一緒に、共に生活し、支え合うもの同士の関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた際や、月1回のお便りの際に、施設での生活状況や問題点など報告・相談し共に本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人の方とのテレビ電話での面会の場を作り交流する機会が持てるように支援している。	入居時の利用者・ご家族からの聞き取りに加えて、日々の支援でひろいあげたことを連絡ノート・個人ファイルに追加し情報を厚くしている。新型コロナウイルスによる影響で面会が途切れないよう、敷地内の法人施設会議室を面会室に使っている。玄関入口からすぐの場所にあり動線を考慮したもので、予防対策もしっかりと行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を観察し、必要時に職員がさりげなく声をかけ橋渡し役に努めている。また、仲の良い利用者から声をかけて頂き、笑顔が見られる関係構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、気軽に相談できる相談窓口となれるように努めている。相談があれば、必要な情報を情報共有や連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中で、本人の思いや意向を聞いて、職員で話し合い、本人の思いに沿った生活の実現に努めている。	新しく入居したご利用者の生活歴や意向等の情報は、計画作成担当者が「わたしの暮らし方シート」というホーム所定の書式に埋めていくようにしている。職員はこの情報を基にして日常の生活支援に移行していく。ホームでの生活が始まったあとは、ご利用者のしぐさや表情、行動から意向を把握するようにしていて、気づきは連絡ノート等に記録して、職員間で情報を共有する仕組みができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際は、今までの生活歴や暮らし方、好みとうを家族より伺いその情報をもとに私の暮らし方シート・24時間シートを作成し、職員全体が把握し、ケアに活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し記録に残し、現状の把握に努めている。定期的にあセスメントを行い、有する能力や課題や生活への思いについての現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーと担当の介護士を中心にケアプランの作成を行っている。ケアの内容については、職員会議の中で情報交換と検討・評価を行い作成を行っている。	「生活援助計画」の作成のプロセスとして、ご利用者やご家族の意見や意向を確認しながら、フェイスシートや課題分析シート、わたしの暮らし方シートを用いて課題を抽出している。計画に基づく職員の支援内容については、生活記録と言う書式に記録され、概ね6カ月に1回モニタリングを経て進捗状況を確認している。ホームの介護計画書に関する特徴的な取組みとして、計画書の一部にホームの理念を記して、常に理念に沿ったプランニングができていないか確認することができることであった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録から介護計画の見直しを行っている。申し送り・連絡ノートの活用。職員会議でのケース会議などにより、職員の気づきに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や家族の意向をその都度確認し、その時々ニーズに応える事が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園児との交流、ボランティアの受け入れを行い、消防署、民生委員、地域の町内会と協力しながら支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に、2週間に1回往診に来て頂き、急変時には、かかりつけ医に連絡を行い、診察を依頼している。緊急時には、受診及び通院は、職員が同行している。	かかりつけ医の選定については、基本的にご利用者やご家族の意向を第一に選定している。但し、ご利用者が重度化して受診することが難しい状況になってきた際は、訪問診療が可能な協力医に変更する場合もあるとのことであった。ご利用者がホームで生活するにあたり、夜間の熱発等状態変化が懸念されるが、協力医は可能な限り対応してくれるとのことであった。このような体制はご利用者やご家族、そして直接的な支援の中心にある職員にとっても安心材料である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に体調変化があった場合は、速やかに医療連携看護師に報告をし必要な助言や指示を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人の情報提供書を作成し、家族や医療機関の方と話し合いを持ち、退院時には、速やかに対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族に看取り介護についての確認書を提示している。本人と家族で話し合いを行い、家族、医師、利用連携従事者、職員の意向を確認して関係者全員で、本人の情報共有し支援に取り組んでいる。	入居契約時に重要事項説明書に記してある「重度化した場合の対応に係る指針」を基にして、ホームの方針や考え方を共有している。ご利用者が入居したばかりの比較的心身の状況が安定している時期であれば、ご利用者やご家族は看取りや重度化のイメージがつきにくいとのことで、時間の経過とともに心身機能の低下が著明になってきたら、随時、ホームやご家族、主治医を交えて方針を確認するようにしている。また、ご家族が看取りを希望した場合は、看取り介護計画書に基づいて支援を行うこととなる。支援内容は詳細に記録されて、その記録を基に計画書の見直しを適宜行うとのことであった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。法人研修にて緊急時対応についても学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎月、火災や地震を想定した避難訓練を行い、年に1度、消防署との合同訓練を行っている。地域の消防団との連携も図っている。	消防計画や消防体制マニュアルに基づいて毎月何らかの形で訓練を実施しているとのことであった。本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、地域の消防分団との合同訓練はできていないが、沈静化したら再開したいとのことであった。ホームはハザードマップ上、特に危険区域に指定されはいるが、年々激震化する災害に備えて、ガス(タンクに保管されているため災害時も利用可能とのこと)による発電設備を整えたり、井戸水をろ過して飲水利用(定期的な検査済み)できたり、万が一の事態に備えて、ライフラインが途絶えないように整備投資している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーポリシー提示し、周知に努めている。職員会議の際にも再確認を行っている。	ホームがご利用者に対する尊厳の保持や人権の尊重という部分で、一番留意している点はお利用者への「言葉かけ」とのことであった。あまり丁寧過ぎても距離感が取れないため、許容の範囲で地域独特の方言も交えながらコミュニケーションを図っている。また言葉使いだけでなく、高齢者特有の疑似体験（目が見えにくい、耳が聞こえにくい等）を行い、実際の立場に立つてものごとを考えられるような取り組みも実施しているとのことであった。全般的に接遇マナー面に課題があるわけではないが、定期的な外部研修の受講や啓発等が必要ということで、今後、管理者は注視していきたい分野であるとのことであった。	言葉使いや接遇マナー等について、外部研修等の受講も効果的と考えられるが、貴法人のスケールメリットを活用して、他事業所の管理者等がホームの状況を客観的に見る機会の創出を期待したい。この取り組みはホームの更なるサービスの品質向上の取り組みの一環としての提案である。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思表示を持つケアに努めている。自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、意向に沿って、その方々のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の安着がある物、好み等を把握し、生活の中に取り入れる事で、その人らしい、おしゃれや身だしなみが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、入居者が食べたい物など献立に取り入れたり、盛り付けや後片付けなど、出来る方には積極的にして頂いている。	食事を楽しむ取組みとして、1つ目に入居時の聞き取りを念入りに行う。2つ目にご利用者の普段の食事の様子を観察する。3つ目に定期的な嗜好調査を実施することで、嗜好に変化がないか確認する。以上の取組みを掲げている。ご利用者はどうしてもホームで生活する時間が長くなるため、「食」の楽しみは、ホームとして特に留意しているとのことであった。また、「楽しみ」とは「旬の素材を美味しく食べる」とも捉えていて、ホームの近所でとれる栗やタケノコ、ヨモギや、ホーム敷地内にある畑でとれた旬の野菜を食卓に並べている。最後にホームの食に対するこだわりの1つとして、お米は食べる前に精米して、つきたてのご飯を提供しているとのことであった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、記録に残し、必要な栄養・水分の確保が出来るように支援している。本人の状態を見極め本人にあった食事・水分の形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。仕上げが必要な方には、一部介助にて仕上げを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄が出来るように、トイレ誘導や声掛けを行っている。	入居して間もないご利用者については、特に排泄パターンを把握するまで、細かい情報交換と記録に努めているとのことであった。心身の機能低下に伴い、どうしても失禁が続くようなご利用者の場合は、パットやリハビリパンツのサイズや種類等、ご利用者本人にフィットしたものを、職員間で情報共有しながら選ぶようにしている。また、「自立支援は環境整備から始まる」ではないが、職員からの要望でトイレの手すりを増設して、立ち上がりや座り込みを容易にする工夫もしているとのことであった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳やヨーグルトを提供している。個人日誌や排泄チェック表の確認を行い、排泄パターンや敵機的なトイレ誘導を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日を決めているが、本人の体調や希望によって、曜日や時間をずらすなどして対応している。	基本的な入浴日は設定してあるとのことであるが、ご利用者を急がせないように午前、午後等時間の制約はあまり行わずに柔軟な対応に努めている。また、ご利用者が重度化しても、身体的な負担を極力減らすように機械浴も準備している。最後に、どうしても入浴を嫌うご利用者への対応は、時間を午前午後の中で数回チャレンジして声掛けの頻度を高めたり、声掛けする職員入れ替えたり、あの手この手を尽くしながら、これと言った答えは見つかりにくく、試行錯誤の日々とのことであった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度な運動や活動を取り入れ、メイハリのある生活リズムを作ることを心掛け、夜間の安眠につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書をファイルし、その都度目的や副作用などを確認出来利用に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴などの情報収集を行い、やりがいや喜びを感じて頂く事の出来る役割活動やレクリエーション活動を取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見などの季節の行事などに出かけている。天気が良い時は、施設内を散歩に出かけている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、今まで定期的に行っていたお買い物等の外出や、ホームに定期的に来ていた移動図書館や販売ができなくなった。このような中でもホームが行ったことは、法人の敷地が広いため、ホーム敷地内の散歩や日光浴、外気浴を行ったとのこと。また、密にならないように留意しながらドライブに出かけて、こいのぼりや季節の花等を車窓からではあるが見物した。感染症の状況が落ち着いてきたら、様子を見ながら少しずつ外出の行動範囲や内容を見直していく方針であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員で管理し、外出時、買い物の際は本人が欲しい物を選んで頂き、職員が本人で支払えるよう工夫または、支援を行い購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等からの電話は、職員が入居者の取次ぎを行い支援している。年賀状・暑中見舞いのはがきは、定期的に送り、本人が書くのが困難な場合は、職員が代筆など行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節に合った飾り物で季節感が季節感が出るように工夫している。随時施設内の温度・湿度調整を行っている。	ホーム全体的に広々としていて清潔感があり、ご利用者と職員と一緒に作成した季節の飾り付けや写真の掲示等が至るところに見受けられて、全体的にぬくもりを感じた。ユニットによっては畳スペースもあり、ご利用者はゆっくりとくつろぐことができる。ホームを含めた法人の敷地は全体的に緑が多く、自然の中でゆっくりと生活できる印象を覚えた。最後に、ホームとして特に感染症予防に留意していて、定期的な消毒や換気、温湿度の管理を徹底しているとのことであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性を考慮して、席を配置している。利用者によっては、場所を移動して一人で落ち着いて過ごす時間ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物を持ち込んで頂いたり、安全に過ごせる様、家具の配置を考え環境を整えている。	ホームは基本的に危険が及ぶ物品以外の持ち込みを容認している。ご利用者の希望や意向を尊重して、仏壇を持参したり好きな写真を貼ったり、逆にシンプルにまとめた部屋があったり、それぞれの考えやスタイルに配慮されている。また安全面での配慮という視点で、ユニットによってはフローリングに、タイルカーペットを敷いて転倒骨折のリスクを軽減したり、壁にマットを設置してご利用者の身体を保護する等、個々の特性に応じた個別的な対処がなされている。最後に、居室においても感染症予防の観点から、定期的な消毒や換気、温湿度の管理を徹底しているとのことであった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	24時間シート等を活用し入居者の身体能力に合わせて、家事の手伝いや歯磨き・着替えなど出来る事はして頂き、安全配慮しながら行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401369		
法人名	社会福祉法人 福翠会		
事業所名	グループホーム 花の里 第2グループ		
所在地	諫早市福田町3316-3		
自己評価作成日	令和3年2月12日	外部評価結果確定日	令和3年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・残存機能を生かし、日々の生活を提供している。 ・笑顔と触れ合いを大切に、居心地の良い環境を整えている。 ・栄養士の献立のもと、季節に応じた食事を提供している。 ・防災設備が充実しており、安心安全に生活できる環境である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvsvoCd=4270401369-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和3年3月13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と各事業所理念を毎日、朝の申し送り時に全職員で復唱し、理念にそったケアの実践を行なえるように努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃に積極的に参加し、法人の行事の際は地域の方々に参加して頂けるように促している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人ブログを公開することで、広く認知症の方々の生活の様子や事業所の行事などを閲覧してもらえるように工夫している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見は、管理者、職員同士で話し合いを行い、共有できるように記録を残している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	二か月に一度行なっている運営推進会議により市役所担当者が民生委員等と信頼関係を築き、様々な意見を聞けるように協力体制を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束虐待防止委員会を開き、職員同士で話し合い、ケアに繋げている。」		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	二か月に一度身体拘束虐待防止委員会を行い、高齢者楽隊に関する知識を身に着けることで虐待が起きない、または起こったとしても見過ごされることがないように努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等により人権等の理解に努め、全体ミーティングの際には研修受講者が研修報告を行い全職員と知識の共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時また改定時は説明を行い、納得をして頂き捺印にてご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望に対しては、記録に残し職員同士で共有した上で、運営推進会議にて発表を行なっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	玄関に目安箱を設置し、あらゆる意見を置くことが出来るようにしており、定期的に面談を行うことで意見や提案を代表者に直接伝えることが出来るように工夫している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場で意見が出た時には速やかにリーダーが職員間から意見を聞き取り、代表者へ報告を行なっている。また、月に一回ミーティングにてスムーズな意見の疎通を図り、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を定期的な受講を促し、職員のケアの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外での研修はお互いに意見交換などを行ない、自らの職場でサービスの質の向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人が困っている事や家族が不安と書いていることを書類にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望は、入居時からアセスメントを行い、速やかな対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、職員、家族間で連絡を密に行い、本人の状況に応じた支援を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場であることを活かし、本人の残存機能や得意分野をそれぞれ見極め役割を担ってもらう事で生き甲斐のある生活を送ってもらい、お互いの信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には職員から普段の入居者の様子をお伝えし情報共有を図っている。また、家族からは意見や要望をさりげなく聞き出し、信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時より家族に馴染みのものの聞き取りを行い、入居後も家族の要望や持ってこられるものがあれば、本人の生活に取り込んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性について、見逃すことがないように細かく観察を行い、トラブル等があった場合は職員が速やかに間に入りトラブル防止に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、家族から相談などがあった場合は、必要に応じて本人に合ったサービスを受けられるように適切な助言を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の場で希望や意向がないか入居者とコミュニケーションを密に取ることによって、意見を引き出すように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から丁寧に話を聞き取るにより馴染みのものを取り入れることにより、生活環境の変化の軽減に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の状態を把握し表情や言動、行動に注視変化を見逃さないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活状態を把握し職員間で話し合いを行い、介護計画に反映できるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状態、食事や水分量など気付いた所を記録用紙に記入し、情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内での行事では、他事業所間で交流が行われ、入居者本人の多様なニーズを満たすことができるように、事業者間での多機能化を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などでは地域に参加を促すように働きかけ、地域に根差した暮らしを入居者の方に実感できるように支援を行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を決める際は、本人・家族・事業者間による話し合いによって決定し、本人に合った適切な医療が受診できるように行なっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、医療連携看護師が訪問し、入居者一人一人について細やかに関わり、変化がないか見逃さないように努めている。また、変化があった場合は速やかに看護師への報告を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては個人記録の説明を行い、既往歴や日常の様子に至るまで医療に情報提供を行いつついる。また、ワーカーと入院後も密に連携を取り早期退院につながるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアについては早期は本人・家族に説明を行っている。また、希望や意見を聞き取ることによる記録にまとめ、方針を共有できるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に際してすぐに対応出来るように定期的に研修や勉強会を行い、応急処置の対応方法を全職員が学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎月一回事業所で火災・地震想定での避難訓練を行なっている。また、一年に一度消防署の立ち合い指導のもと法人全体の避難訓練を実施することによって、実際に自然災害が生じた時迅速に対応出来るように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	二か月ごとに身体拘束虐待防止会議を開き、人権に関する知識を得るように努めている。また、入居者の状態に適切に対応出来るように職員間で話し合いを行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で一人一人の残存機能に合った役割分担によるお手伝いをしてもらうことにより自己決定の支援を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の出来ることを細かく観察することによって各々のペースを把握するように努め、本人の希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等の嗜好等、本人に自己選択を楽しんで行なってもらうよう工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りの工程を一緒に手伝ってもらう事により入居者の残存機能を引き出している。また、日常でも食事の準備・後かたづけ等を一緒に行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の状況に応じて食べやすい形態にして提供し、摂取量や水分量は三食ごとに記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残存機能を活かした口腔ケア支援を行い、口腔衛生の保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人一人にあった誘導を行い、失禁を減らすように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服用せずに、快適な排便が出来るように歩行運動やレクリエーション等により自然排便を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴が楽しめるように工夫して喜びの行為と捉えてもらう努力を行なっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人に合った休憩を提供できるように生活パターンを把握し安心した生活作りの基本を作れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が入居者の薬の内容を把握し、誤薬や飲み忘れがないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で残存機能を活かせるように役割分担を行い、生き甲斐のある生活を促している。また、日常的に散歩やレクリエーションを行い気分転換を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月外出支援を行っていたが、コロナウイルスの影響により他人との接触がないように工夫したドライブ等の支援を行なっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本施設管理だが、本人の状況に応じて買い物支援を行い、直接支払ってもらう事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の認知レベルに応じて電話や手紙、はがき等の支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔保持に努め、季節に応じたしつらえや入居者の作品等を展示したりと工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人のパーソナルスペースを大事にし安心した状態保持ができるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物や大切にしている物を引き続き使って頂き、心地よく過ごしてもらえるような環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体状況や能力に応じて共同空間や居室等の工夫を行っており自立と安全に気を配っている。		